

オーストラリアの政策金利引き下げについて

2012年5月2日

5月1日、オーストラリア準備銀行は金融政策決定会合にて政策金利を0.5%引き下げ、従来の4.25%から3.75%としました。政策金利引き下げの実施は5ヶ月ぶりのことです。

《予想を上回る引き下げ幅》

先月のオーストラリア準備銀行の声明などから、5月の政策金利引き下げ観測が強まっていたが、0.5%の引き下げ幅は、市場予想(0.25%の引き下げ幅)を上回るものでした。

今回の政策金利を引き下げた主な要因としては、①オーストラリア国内景気の鈍化、②資源の輸出先である中国およびアジア諸国の景気減速懸念、③物価上昇(インフレ)率の低下基調、などが考えられます。

また、この決定を受けて、オーストラリアドルは一時下落しましたが、その後は落ち着きをみせ始めています。

《今後の見通し》

●景気の見通し

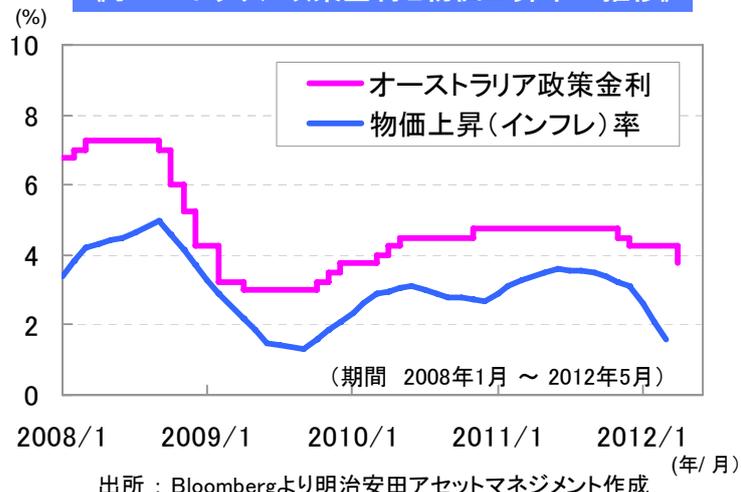
IMF(国際通貨基金)によると、2011年には実質GDP成長率が2.0%と減速ぎみだったオーストラリア経済ですが、2012年には3.0%、翌13年には3.5%まで回復すると予測されています。資源の主要輸出先である中国経済についても、中国政府が発表した4月の製造業PMI(購買担当者指数)などの足元の経済指標では底堅さがみられます。市場が懸念するほどオーストラリア経済は減速には至らず、むしろ、政策金利の引き下げ幅を拡大したことで市場予想を上回るペースでの回復も期待されるところです。

●為替見通し

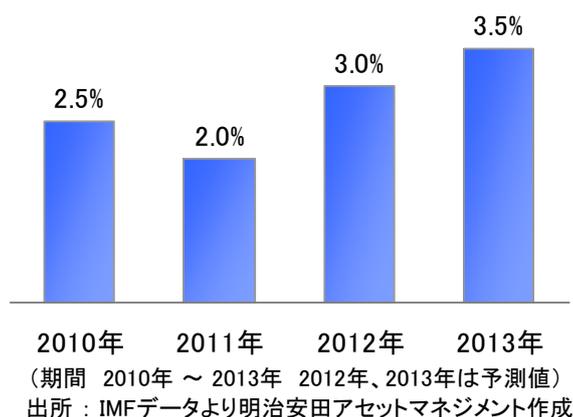
豪ドルについては、昨年後半より堅調な推移が続きましたが、足元では、今回の政策金利引き下げや、中国の景気減速懸念を織り込み、軟調に推移しました。

しかし、前述のように景気を持ち直しや、政策金利引き下げ実施後も他の先進国と比較して金利水準が高いこと、良好な財政状況を背景に信用力の高い国であることから、投資先としての魅力は依然高く、オーストラリアドルは底堅い動きに転じると予想されます。

《オーストラリア政策金利と物価上昇率の推移》



《オーストラリアの実質GDP成長率》



《オーストラリアドルの対円推移》



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。